

立命館禁衛隊寶典

特260

691

24

14



始



持260
691



立命館禁衛隊寶典



立命館禁衛隊寶典目次

天照大神ノ神勅	一
神武天皇御即位前紀ノ詔	二
孝德天皇大化改新ノ詔	四
文武天皇御即位宣命	九
明治天皇御即位宣命	十二
明治天皇五箇條ノ御誓文	十四
明治天皇維新ノ詔	十六
明治天皇軍人ニ賜ヘル勅諭	二十
明治天皇幼學綱要頒賜ノ勅諭	三十四

明治天皇憲法發布ノ勅語……………四十八

明治天皇皇室典範及憲法制定ニツキテノ御告文……………五十

明治天皇憲法發布ノ詔……………五十四

明治天皇教育ニ關スル勅語……………五十六

明治天皇第一帝國議會開院式ノ勅語……………五十八

明治天皇戊申詔書……………六十

大正天皇即位式勅語……………六十二

大正天皇國民精神作興ニ關スル詔書……………六十五

今上陛下朝見ノ儀ニ於テ賜ハリタル勅語……………六十九

今上陛下即位式勅語……………七十三

今上陛下國際聯盟脫退ノ詔書……………七十六

大 祓 詞……………七十九

祈 年 祭 祝 詞……………八十三

歲 旦 祭 祝 詞……………九十

元 始 祭 祝 詞……………九十二

紀 元 節 祭 祝 詞……………九十四

天 長 節 祭 祝 詞……………九十六

明 治 節 祭 祝 詞……………九十八

新 嘗 祭 祝 詞……………百

立命館禁衛隊寶典

立命館禁衛隊謹編

天照大神ノ神勅

豊葦原ノ千五百秋ノ瑞穂ノ國ハ、コレ吾ガ子孫ノ王タル
 ベキノ地ナリ。宜シク爾皇孫就キテ治ラセ。行矣。寶
 祚ノ隆エマサンコト、當ニ天壤ト窮リナカルベシ。

(日本書紀ニヨル)

神武天皇御即位前紀ノ詔

神武天皇御即位前己未年三月七日

我レ東ヲ征チシヨリ茲ニ六年ニナリヌ。皇天ノ威ヲ賴
リテ兇徒就戮サレヌ。邊土未ダ清ラズ、餘妖尙梗タリト
雖モ、中洲之地復風塵ナシ。誠ニ宜シク皇都ヲ恢メ廓キ、
大壯ヲ規摹ルベシ。而ルニ、今運コノ屯蒙ニ屬ヒ、民ノ心
朴素ナリ。巢ニ棲ミ穴ニ住ム習俗惟レ常トナレリ。夫
レ大人ノ制ヲ立ツル義必ズ時ニ隨フ。苟モ民ニ利アラ
バ、何ニゾ聖造ニ妨ハム。且當ニ山林ヲ披キ拂ヒ、宮室ヲ

經メ營リテ、恭ミテ寶位ニ臨ミ、以テ元元ヲ鎮メ、上ハ則チ
乾靈ノ國ヲ授ケタマヒシ德ニ答ヘ、下ハ則チ皇孫ノ正ヲ
養ヒタマヒシ心ヲ弘ムベシ。然テ後ニ、六合ヲ兼ネテ都
ヲ開キ、八紘ヲ掩ヒテ宇ト爲ムコト亦可カラズヤ。カノ
畝傍山ノ東南樞原ノ地ヲ觀レバ、蓋シ國ノ境區カ、治ツク
ルベシ。(日本書紀ニヨル)

孝德天皇大化改新ノ詔

大化二年一月一日

其ノ一ニ曰ク昔在ノ天皇等ノ立テ給ヘル子代ノ民處々ノ屯倉及ビ別・臣・連・伴造・國造・村首ノ所有テル部曲ノ民處々ノ田庄ヲ罷メタマフ。仍リテ食封ヲ大夫ヨリ以上ニ賜フコト各差降アリ。布帛ヲ以テ官人百姓ニ賜フコト差有リ。又曰ク大夫ハ民ヲ治タシムル所ナリ。能ク其ノ治ヲ盡ストキハ則チ民頼ム。故レ其ノ祿ヲ重クスルコトハ民ノ爲ニスル所以ナリ。

其ノ二ニ曰ク初メテ京師ヲ修リタマフ。畿内・國司・郡司・關塞・斥候・防人・驛馬・傳馬ヲ置ケ。及鈴契ヲ造リ山河ヲ定メタマフ。凡ソ京ニハ坊毎ニ長一人ヲ置キ四坊ニ令一人ヲ置キ戸口ヲ按ヘ檢メ奸非ヲ督シ察ルコトヲ掌レ。其坊ノ令ニハ坊内ニ明廉強直時務ニ堪ヘタル者ヲ取リテ宛テヨ。里坊ノ長ニハ並里坊ノ百姓ノ清正強幹者ヲ取リテ宛テヨ。若シ當里坊ニ人無クバ比ノ里坊ニ簡ビ用キルコトヲ聽セ。凡ソ畿内ハ東ハ名墾ノ横河ヨリ以來南ハ紀伊ノ兄山ヨリ以來西ハ赤石ノ櫛淵ヨリ

以來、北ハ近江ノ狹々波ノ合坂山ヨリ以來チ畿内ト爲ヨ。
 凡ソ郡ハ四十里ヲ以テ大郡ト爲シ、三十里ヨリ以下四里
 ヨリ以上チ中郡ト爲シ、三里ヲ小郡ト爲ヨ。其ノ郡司ニ
 ハ並國造ノ性識清廉クシテ、時務ニ堪ヘタル者ヲ取りテ、
 大領・小領ト爲ヨ。強幹シク聰敏クテ、書笈ニ工ナル者ヲ
 主政・主帳ト爲ヨ。凡ソ驛馬・傳馬ヲ給フコトハ、皆鈴傳
 ノ符ノ剋ノ數ニ依レ。凡ソ諸國及ビ關ニハ鈴契ヲ給ハ
 バ、並長官執レ、無クバ次官執レ。
 其三ニ曰ク、初メテ戸籍・計帳・班田收授ノ法ヲ造ル。凡ソ

五十戸ヲ里ト爲シ、里毎ニ長一人ヲ置ク。戸口ヲ按ヘ檢
 メ、農桑ヲ課殖エ、非違ヲ禁察メ、賦役ヲ催駈スコトヲ掌ラ
 シメヨ。若シ山谷阻險クテ、地遠ク人稀ナル處ニハ、便ノ
 隨ニ量ヒテ置ケ。凡ソ田ハ長三十步、廣サ十二步ヲ段ト
 爲ヨ。十段ヲ町ト爲ヨ。段毎ニ租稻二束二把、町ゴトニ
 租稻二十二束トセヨ。
 其四ニ曰ク、舊ノ賦役ヲ罷メテ、田ノ調ヲ行ヘ。凡ソ絹・緇・
 絲・綿ハ並郷土ノ出ス所ニ隨ヘ。田一町ニ絹一丈、四町ニ
 テ匹ヲ成ス。長サ四丈、廣サ二尺半。緇ハ二丈、二町ニテ

疋ヲ成ス。長廣サハ絹ニ同ジ。布四丈、長サハ絹、纒ニ同ジ。一町ニテ端ヲ成セ。別ニ戸別ノ調ヲ收レ。一戸ニ費ノ布一丈二尺。凡ソ調ノ副物ハ、鹽ト贄、亦郷土ノ出ス所ニ隨ヘ。凡ソ官馬ハ、中馬一百戸毎ニ一疋ヲ輸セ。若シ細馬ハ、二百戸毎ニ一疋ヲ輸セ。其馬ヲ買ハム直ハ、一戸ニ布一丈二尺ゾ。凡ソ兵ハ、人身ゴトニ刀・甲・弓・矢・幡・鼓ヲ輸セ。(日本書紀ニヨル)

文武天皇御即位宣命

文德天皇元年八月十七日

現ツ御神ト大八嶋國知ロシメス。天皇ガ大命ヲマツテ詔リ給フ大命ヲ、ウゴナハレル皇子等・王・臣・百官人等・天下ノ公民諸聞シメサヘト宣ル。高天原ニ事始メテ遠天皇祖ノ御世御世中今ニ至ルマデ、天皇ガ御子ノ生レマサム彌繼々ニ大八嶋國知ラサム次ギテト、天ツ神ノ御子ナガラモ、天ニ坐ス神ノ依サシマツリシマニマ、キコシメシクル此ノ天ツ日嗣高御座ノ業ト、現ツ御神ト大八嶋國知ロシ

メス倭根子^{ヤマトキ}天皇命^{スメラミコト}ノ授ケ賜ヒ負セ賜フ、貴キ・高キ・厚キ
大命ヲ受ケタマハリ恐^{カシコ}ミマシテ、此ノ食國^{イヌクニ}天下ヲ調ヘタ
マヒ平ラゲ賜ヒ、天下ノ公民^{オホミタカラ}ヲ惠ミタマヒ撫テ賜ハムト
ナモ神ナガラ思ホシメサクト詔リ給フ天皇が大命ヲ諸
聞シメサヘト宣ル。是^{コト}ヲ以テ百官^{モモノツカサビト}人等^{タチ}四方^{ヨコエ}ノ食國^{イヌクニ}ヲ治
メマツレト、任ケ賜ヘル國々ノミコトモチドモニ至ルマ
デニ、天皇ガ朝廷^{ミカド}ノ布^フキ賜ヒ行ヒ賜ヘル國ノ法^{ホウ}ヲ過チ犯
ス事ナク、明^{アカ}キ・淨^{キヨ}キ・直^{ナホ}キ誠ノ心ヲモチテ、イヤス、ミテ
タユミ怠ル事ナク、務メシマリテ事ヘマツレト詔リ給フ

大命ヲ諸^{モト}聞シメサヘト宣ル。故^{カレ}、カクノサマヲ聞シメシ
悟リテ、イソシク事ヘマツラム人ハ、其ノ事ヘマツレラム
狀^{サマ}ノマニマ、品品^{タタ}讚^ホメ賜ヒ上ゲ賜ヒ治メ賜ハムモノゾト、
詔^{ミコト}リ給フ天皇^{スメラミコト}ガ大命ヲ諸^{モト}聞シメサヘト宣ル。

(續日本紀ニヨル)

明治天皇御即位宣命

慶應四年八月二十七日

現神止大八洲國所知須、天皇我詔旨良萬止宣布勅命乎、親
 王諸臣百官人等、天下公民衆聞食止宣布。掛畏伎平安宮
 爾御宇須倭根子天皇我宣布此天日嗣高座乃業乎、掛畏伎
 近江乃大津乃宮爾御宇志、天皇乃初賜比定賜倍留法隨爾
 仕奉止仰賜比授賜比、恐美受賜倍留御代々々乃御定有可
 上爾方今天下乃大政古爾復志賜比、且、橿原乃宮爾御宇志、
 天皇御創業乃古爾基伎、大御世袁彌益々爾吉伎御代止固

成賜波牟其大御位爾即世賜比、且、進毛退毛不知爾、恐美坐
 佐久止宣布大命乎、衆聞食止宣布。然爾天下治賜倍留君
 者良弼乎得、且、平久安久治賜布物爾在止奈牟所聞須。爰
 朕雖淺劣親王諸臣等乃相穴奈比、扶奉牟事爾依、且、仰賜比
 授賜倍留食國乃、天下乃政波平久安久仕奉倍志止所念行
 須。是以彌抱正直乃心、且、天皇我朝廷乎、衆助仕奉止宣布
 天皇我勅命乎、衆聞食止宣布。

明治天皇五箇條ノ御誓文

明治元年三月十四日

- 一、廣ク會議ヲ起シ萬機公論ニ決スヘシ
 - 一、上下心ヲ一ニシ盛ニ經綸ヲ行フヘシ
 - 一、官武一途庶民ニ至ル迄各其志ヲ遂ケ人心ヲシテ倦マサラシメンコトヲ要ス
 - 一、舊來ノ陋習ヲ破リ天地ノ公道ニ基クヘシ
 - 一、智識ヲ世界ニ求メ大イニ皇基ヲ振起スヘシ
- 我國未曾有ノ變革ヲ爲サントシ、朕躬ヲ以テ衆ニ先ンシ

天地神明ニ誓ヒ、大ニ斯國是ヲ定メ萬民保全ノ道ヲ立テ
ントス。衆亦此旨趣ニ基キ協心努力セヨ。

明治天皇維新ノ詔

明治元年三月十四日

朕幼弱ヲ以テ粹ニハカニ大統ヲ紹ツギ、爾來何ヲ以テ萬國ニ對立
シ列祖ニ事ヘ奉ランヤト、朝夕恐懼ニ堪ヘザル也。竊ヒツカニ
考フルニ、中葉朝政衰ヘテヨリ、武家權ヲ專ラニシ、表ハ朝
廷ヲ推尊シテ、實ハ敬シテ是ヲ遠ザケ、億兆ノ父母トシテ
絶エテ赤子ノ情ヲ知ルコト能ハザルヤウ計リナシ、遂ニ
億兆ノ君タルモ唯名ノミニ成リ果、其ガ爲メ今日朝廷ノ
尊重ハ古ヘニ倍セシガ如クニテ、朝威ハ倍ツク衰ヘ上下相離

ルルコト霄壤ノ如シ。カ、ル形勢ニテ何ヲ以テ天下ニ
君臨センヤ。今般朝政一新ノ時ニ膺ツクリ、天下億兆一人モ
其處ヲ得ザルトキハ、皆朕ガ罪ナレバ、今日ノ事朕自ラ身
骨ヲ勞シ、心志ヲ苦メ艱難ノ先ニ立チ、古ヘ列祖ノ盡サセ
給ヒシ蹤アトヲ履ミ、治績ヲ勤メテコソ始テ天職ヲ奉ジテ億
兆ノ君タル所ニ背カザルベシ。往昔列祖萬機ヲ親シラシ、
不臣ノモノアレバ自ラ將トシテ是ヲ征シ給ヒ、朝廷ノ政
總テ簡易ニシテ、此ノ如ク尊重ナラザル故、君臣相親ミテ
上下相愛シ、德澤天下ニ洽ツクク、國威海外ニ輝キシナリ。然

ルニ近來宇内大ニ開ケ、各國四方ニ相雄飛スルノ時ニ當リ、獨リ我邦ノミ世界ノ形勢ニウツク、舊習ヲ固守シ一新ノ効ヲハカラズ、朕徒ニ九重ノ中ニ安居シ、一日ノ安キヲ偷ミ百年ノ憂ヲ忘ルルトキハ、遂ニ各國ノ凌侮ヲ受ケ上ハ列聖ヲ辱メ奉リ、下ハ億兆ヲ苦メンコトヲ恐ル。故ニ朕ココニ百官諸侯ト廣ク相誓ヒ、列祖ノ御偉業ヲ繼述シ、一身ノ艱難辛苦ヲ問ハズ、親ラ四方ヲ經營シ、汝億兆ヲ安撫シ、遂ニハ萬里ノ波濤ヲ拓開シ、國威ヲ四方ニ宣布シ、天下ヲ富岳ノ安キニ置カンコトヲ欲ス。汝億兆舊來ノ陋

習ニ慣レ、尊重ノミヲ朝廷ノコトトナシ、神州ノ危急ヲ知ラズ、朕一タビ足ヲ舉グレバ、非常ニ驚キ疑惑ヲ生ジ、萬口紛紜トシテ朕ガ志ヲナサザラシムルトキハ、是朕ヲシテ君タル道ヲ失ハシムルノミナラズ、從ツテ列祖ノ天下ヲ失ハシムル也。汝億兆能々朕ガ志ヲ體認シ、相率キテ私見ヲ去リ、公議ヲ採リ、朕ガ業ヲ助ケ、神州ヲ保全シ、列聖ノ神靈ヲ慰シ奉ラシメ、生前ノ幸甚ナラン。

明治天皇軍人ニ賜ヘル勅諭

明治十五年一月四日

我國ノ軍隊ハ世々天皇ノ統率シ給フ所ニゾアル。昔神武天皇躬ヅカラ大伴物部ノ兵ドモチ率キ、中國ノマツロハヌモノドモチ討チ平ゲ給ヒ、高御座ニ即カセラレテ天下シロシメシ給ヒシヨリ、二千五百有餘年ヲ經ヌ。此間世ノ様ノ移リ換ルニ隨ヒテ、兵制ノ沿革モ亦屢ナリキ。古ハ天皇躬ヅカラ軍隊ヲ率キ給フ御制ニテ、時アリテハ皇后皇太子ノ代ラセ給フコトモアリツレド、大凡兵權ヲ

臣下ニ委ネ給フコトハナカリキ。中世ニ至リテ文武ノ制度皆唐國風ニ倣ハセ給ヒ、六衛府ヲ置キ、左右馬寮ヲ建テ、防人ナド設ケラレシカバ、兵制ハ整ヒタレドモ打續ケル昇平ニ狃レテ、朝廷ノ政務モ漸ク文弱ニ流レケレバ、兵農オノヅカラ二ニ分レ、古ノ徵兵ハイットナク、壯兵ノ姿ニ變リ、遂ニ武士トナリ、兵馬ノ權ハ一向ニ其武士ドモノ棟梁タル者ニ歸シ、世ノ亂ト共ニ政治ノ大權モ亦其手ニ落チ、凡七百年ノ閑武家ノ政治トハナリヌ。世ノ様ノ移リ換リテ斯ナレルハ、人力モテ挽回スベキニアラズトハ

イヒナガラ、且ハ我國體ニ戻リ、且ハ我祖宗ノ御制ニ背キ奉リ淺間シキ次第ナリキ。降リテ弘化嘉永ノ頃ヨリ、徳川ノ幕府其政衰へ、剩外國ノ事ドモ起リテ、其侮ヲモ受ケヌベキ勢ニ迫リケレバ、朕ガ皇祖仁孝天皇皇考孝明天皇イタク宸襟ヲ惱シ給ヒシコソ忝クモ又惶ケレ。然ルニ朕幼クシテ天津日嗣ヲ受ケシ初、征夷大將軍其政權ヲ返上シ、大名小名其版籍ヲ奉還シ、年ヲ經ズシテ海内一統ノ世トナリ、古ノ制度ニ復シヌ。是文武ノ忠臣良弼アリテ、朕ヲ輔翼セル功績ナリ。歷世祖宗ノ專ラ蒼生ヲ憐ミ給

ヒシ御遺澤ナリトイヘドモ、併我臣民ノ其心ニ順逆ノ理ヲ辨へ、大義ノ重キヲ知レルガ故ニコソアレ。サレバ此時ニ於テ兵制ヲ更メ、我國ノ光ヲ耀サント思ヒ、此十五年ガ程ニ、陸海軍ノ制ヲバ今ノ様ニ建定メヌ。夫兵馬ノ大權ハ朕ガ統ブル所ナレバ、其司々ヲコソ臣下ニハ任スナレ、其大綱ハ朕親ラ之ヲ攬リ、肯テ臣下ニ委ヌベキモノニアラズ。子々孫々ニ至ルマデ篤ク斯旨ヲ傳へ、天子ハ文武ノ大權ヲ掌握スルノ義ヲ存シテ、再ビ中世以降ノ如キ失體ナカラントヲ望ムナリ。朕ハ汝等軍人ノ大元帥

ナルゾ。サレバ朕ハ汝等ヲ股肱ト頼ミ、汝等ハ朕ヲ頭首ト仰ギテゾ其親ハ特ニ深カルベキ。朕ガ國家ヲ保護シテ、上天ノ惠ニ應ジ、祖宗ノ恩ニ報イマキラスル事ヲ得ルモ得ザルモ、汝等軍人ガ其職ヲ盡スト盡サザルトニ由ルゾカシ。我國ノ稜威振ハザルコトアラバ、汝等能ク朕ト其憂ヲ共ニセヨ。我武維揚リテ其榮ヲ耀サバ、朕汝等ト其譽ヲ偕ニスベシ。汝等皆其職ヲ守リ、朕ト一心ニナリテ、力ヲ國家ノ保護ニ盡サバ、我國ノ蒼生ハ永ク太平ノ福ヲ受ケ、我國ノ威烈ハ大ニ世界ノ光華トモナリヌベシ。

朕斯モ深ク汝等軍人ニ望ムナレバ、猶訓諭スベキ事コソアレ。イデヤ之ヲ左ニ述ベム。

一軍人ハ忠節ヲ盡スヲ本分トスベシ。凡生ヲ我國ニ稟クルモノ誰カハ國ニ報ユルノ心ナカルベキ。況シテ軍人タラン者ハ此心ノ固カラデハ、物ノ用ニ立チ得ベシトモ思ハレズ。軍人ニシテ報國ノ心堅固ナラザルハ、如何程技藝ニ熟シ學術ニ長ズルモ、猶偶人ニヒトシカルベシ。其隊伍モ整ヒ節制モ正クトモ、忠節ヲ存セザル軍隊ハ事ニ臨ミテ、烏合ノ衆ニ同ジカルベシ。抑國家ヲ保護シ國

權ヲ維持スルハ兵力ニ在レバ、兵力ノ消長ハ是國運ノ盛衰ナルコトヲ辨ヘ、世論ニ惑ハズ政治ニ拘ラズ、只々一途ニ己ガ本分ノ忠節ヲ守リ、義ハ山嶽ヨリモ重ク死ハ鴻毛ヨリモ輕シト覺悟セヨ。其操ヲ破リテ不覺ヲ取り汚名ヲ受クルナカレ。

一軍人ハ禮儀ヲ正シクスベシ。凡軍人ニハ上元帥ヨリ下一卒ニ至ルマデ、其間ニ官職ノ階級アリテ統屬スルノミナラズ、同列同級トテモ停年ニ新舊アレバ、新任ノ者ハ舊任ノモノニ服従スベキモノゾ。下級ノモノハ上官ノ

命ヲ承ルコト、實ハ直ニ朕ガ命ヲ承ル義ナリト心得ヨ。己ガ隸屬スル所ニアラズトモ、上級ノ者ハ勿論、停年ノ己ヨリ舊キモノニ對シテハ、總ベテ敬禮ヲ盡スベシ。又上級ノ者ハ、下級ノモノニ向ヒ聊モ輕侮驕傲ノ振舞アルベカラズ。公務ノ爲ニ威嚴ヲ主トスル時ハ格別ナレドモ、其外ハ務メテ懇ニ取扱ヒ、慈愛ヲ專一ト心掛ケ、上下一致シテ王事ニ勤勞セヨ。若軍人タルモノニシテ禮儀ヲ紊リ、上ヲ敬ハズ下ヲ惠マズシテ、一致ノ和諧ヲ失ヒタランニハ、嘗ニ軍隊ノ蠱毒タルノミカハ。國家ノ爲ニモユル

シ難キ罪人ナルベシ。

一軍人ハ武勇ヲ尙ブベシ。夫武勇ハ我國ニテハ古ヨリ
イトモ貴ベル所ナレバ、我國ノ臣民タランモノ武勇ナク
テハ叶フマジ。況シテ軍人ハ戰ニ臨ミ敵ニ當ルノ職ナ
レバ、片時モ武勇ヲ忘レテヨカルベキカ。サハアレ武勇
ニハ大勇アリ小勇アリテ同ジカラズ。血氣ニハヤリ粗
暴ノ振舞ナドセンハ、武勇トハ謂ヒ難シ。軍人タラムモ
ノハ常ニ能ク義理ヲ辨ヘ、能ク膽力ヲ練リ、思慮ヲ殫^{ツク}シテ
事ヲ謀ルベシ。小敵タリトモ侮ラズ大敵タリトモ懼^{オソ}レ

ズ、己ガ武職ヲ盡サムコソ誠ノ大勇ニハアレ。サレバ武
勇ヲ尙ブモノハ、常々人ニ接^{アヒ}ルニハ溫和ヲ第一トシ、諸人
ノ愛敬ヲ得ムト心掛ケヨ。由ナキ勇ヲ好ミテ猛威ヲ振
ヒタラバ、果ハ世人モ忌嫌ヒテ豺狼^{サイロウ}ナドノ如ク思ヒナム。
心スベキコトニコソ。

一軍人ハ信義ヲ重ンズベシ。凡信義ヲ守ルコト常ノ道
ニハアレド、ワキテ軍人ハ信義ナクテハ一日モ隊伍ノ中
ニ交リテアランコト難カルベシ。信トハ己ガ言ヲ踐^{ツミ}行
ヒ、義トハ己ガ分ヲ盡スチイフナリ。サレバ信義ヲ盡サ

ムト思ハ、始ヨリ其事ノ成シ得ベキカ得ベカラザルカ
ヲ審ニ思考スベシ。臆氣ナル事ヲ假初ニ諾ヒテ、ヨシナ
キ關係ヲ結ビ、後ニ至リテ信義ヲ立テントスレバ、進退谷
リテ身ノ措キ所ニ苦ムコトアリ。悔ユトモ其詮ナシ。
始ニ能ク事ノ順逆ヲ辨ヘ、理非ヲ考ヘ、其言ハ所詮踐ムベ
カラズト知り、其義ハトテモ守ルベカラズト悟リナバ、速
ニ止ルコソヨケレ。古ヨリ或ハ小節ノ信義ヲ立テント
テ、大綱ノ順逆ヲ誤リ、或ハ公道ノ理非ニ踏迷ヒテ、私情ノ
信義ヲ守リ、アタラ英雄豪傑ドモガ禍ニ遭ヒ、身ヲ滅シ屍

ノ上ノ汚名ヲ、後世マデ遺セルコト、其例尠カラヌモノヲ。
深ク警メテヤハアルベキ。

一軍人ハ質素ヲ旨トスベシ。凡質素ヲ旨トセザレバ、文
弱ニ流レ輕薄ニ趨リ、驕奢華麗ノ風ヲ好ミ、遂ニハ貪汚ニ
陥リテ、志モ無下ニ賤クナリ、節操モ武勇モ其甲斐ナク、世
人ニ爪ハジキセラル、迄ニ至リヌベシ。其身生涯ノ不
幸ナリトイフモ中々愚ナリ。此風一タビ軍人ノ間ニ起
リテハ、彼ノ傳染病ノ如ク蔓延シ、士風モ兵氣モ頓ニ衰ヘ
ヌベキコト明ナリ。朕深ク之ヲ懼レテ、曩ニ免黜條例ヲ

施行シ、略ホボ此事ヲ誠イマシメ置キツレド、猶モ其惡習ノ出デンコトヲ憂ヒテ、心安カラネバ、故コトサラニ又之ヲ訓フルゾカシ。汝等軍人ユメ此訓ア誠シヲ等間ナホニナ思ヒソ。

右ノ五ヶ條ハ軍人タランモノ暫モ忽スルカセニスベカラズ。サテ之ヲ行ハンニハ一ノ誠心マコロコソ大切ナレ。抑此五ヶ條ハ我軍人ノ精神ニシテ、一ノ誠心ハ又五ヶ條ノ精神ナリ。心誠ナラザレバ、如何ナル嘉言モ善行モ、皆ウハベノ裝飾カザリニテ、何ノ用ニカハ立ツベキ。心ダニ誠アレバ何事モ成ルモノゾカシ。況シテヤ此五ヶ條ハ天地ノ公道人倫ノ

常經ナリ。行ヒ易ク守リ易シ。汝等軍人能ク朕ガ訓アニ遵シヒテ、此道ヲ守リ行ヒ、國ニ報ユルノ務ヲ盡サバ、日本國ノ蒼生サウセイ舉リテ之ヲ悦ビナン。朕一人ノ懌オロコヒノミナランヤ。

明治天皇幼學綱要頒賜ノ勅諭

明治十五年十二月二日

彝倫道德ハ教育ノ主本、我朝支那ノ専ラ崇尚スル所、歐米各國モ亦修身ノ學アリト雖モ、之ヲ本朝ニ採用スル未ダ其要ヲ得ズ。方今學科多端、本末ヲ誤ル者鮮カラズ。年少就學最モ當ニ忠孝ヲ本トシ仁義ヲ先ニスベシ。因テ儒臣ニ命ジテ此書ヲ編纂シ、羣下ニ頒賜シ、明倫修德ノ要茲ニ在ル事ヲ知ラシム。

孝行第一 天地ノ間、父母無キノ人無シ。其初メ胎ヲ受

ケテ生誕スルヨリ、成長ノ後ニ至リ、其恩愛教養ノ深キ、父母ニ若ク者莫シ。能ク其恩ヲ思ヒ、其身ヲ慎ミ、其力ヲ竭シテ以テ之ニ事ヘ、其愛敬ヲ盡スハ子タルノ道ナリ。故ニ孝行ヲ以テ、人倫ノ最大義トス。

忠節第二 宇内萬國、國體各、異ナリト雖モ、主宰有ラザルノ民無シ。凡ソ人臣タル者、其君ヲ敬シ、其國ヲ愛シ、其職ヲ勤メ、其分ヲ盡シ、以テ其恩義ニ報ズルヲ以テ常道トス。況ヤ萬世一系ノ君ヲ戴キ、千古不易ノ臣民タル者ニ於テチヤ。故ニ臣ノ忠節ヲ子ノ孝行ニ竝ベテ、人倫ノ最

大義トス。

和順第三 人ニ男女アリ、故ニ必ズ夫婦アリ。夫婦アリ、然ル後父子アリ、兄弟アリ。以テ一家ヲ成ス。夫ハ其ノ外ヲ治メ、婦ハ其内ヲ修ムル者ナリ。夫婦和順ナレバ、一家齊整ス。所謂ル人倫ハ夫婦ニ始ルナリ。之ヲ忠孝ニ竝ベテ、人倫ノ大義トス。

友愛第四 兄弟ハ一體一支ナリ。長少ノ序、惠順ノ別アリト雖モ、相友愛スルノ情理ニ至リテハ、則チ異ナルコト無シ。故ニ其理ヲ念ヒ其情ヲ盡シ、終身相善クシテ、以テ

其ノ恩義ヲ全クスルチ、兄弟ノ道トシ、夫婦ノ和順ニ亞デ、人倫ノ大義トス。

信義第五 人ノ身ヲ立テ道ヲ行フ、必ズ朋友ノ輔ヲ須ツ。故ニ一タビ相友トスレバ、互ニ腹心ヲ開キ、忠告善導、患難相濟ヒ、得喪ヲ以テ其交ヲ渝ヘズ、終始一ノ如キチ朋友ノ信義トシ、五倫中ノ一要義ニシテ、亦汎ク人ニ交ルノ道ナリ。

勤學第六 人皆天賦ノ徳性アリ。然レドモ學バズシテ能ク道ヲ知ル者無シ。必ズ當サニ先覺ニ就キテ學習シ、

道ヲ明メ、行ヲ修メ、以テ其德ヲ成スベシ。苟モ師トスル所無ク、才ヲ恃ミテ自ラ用フルトキハ、德ヲ傷ヒ事ヲ傷ル。小技末藝ト雖モ、終ニ成スコト能ハズ。故ニ勤學ハ己ヲ成シ、物ヲ成スノ根柢ナリ。

立志第七 凡人、德ヲ崇クシ、業ヲ建テムト欲セバ、當サニ先ヅ其志ヲ立ツベシ。志ヲ立ツルコト、堅固ニシテ變ゼズ、強メテ息マザレバ、期スル所遠大ト雖モ、暢達セザル者鮮シ。若シ其志浮泛ニシテ、徒ニ成ル有ラムコトヲ求ムルハ、猶播種セズシテ、收穫ヲ望ムガ如シ。豈得ベキノ理

有ラムヤ。故ニ志ヲ立ツルハ、德ヲ崇クシ、業ヲ建ツルノ大本ナリ。

誠實第八 誠實ハ人心ノ本根、百行皆茲ヨリ出ヅ。苟モ偽詐虛妄ニ涉ルトキハ、才智有リト雖モ、恃ムニ足ラズ。故ニ一言一行、内ニ省ミテ疚シカラズ。而シテ後、身ヲ保チ事ヲ濟ス可シ。此レ誠實ノ須臾モ離ル可カラザル所以ナリ。

仁慈第九 天地ハ生物ヲ以テ心トス。人其理ヲ受ケテ生ル。故ニ亦天地ノ心ヲ以テ心トス。所謂ル人ニ忍ビ

ザルノ心是ナリ。

此心ヲ擴充シテ事物ニ及ボスヲ仁慈ノ道トス。人苟モ此心ヲ失ハ、理ニ背キ道ニ違ヒ、以テ自ラ立ツコト無シ。誠ニ能ク仁慈ニシテ後、以テ人ト爲ス可シ。故ニ曰ク、仁ハ人ナリ。

禮讓第十 禮ハ天理ノ節文、人事ノ儀則、讓ハ即チ禮ノ實ナリ。禮讓有リ、而シテ後、天理全ク、人事順ニシテ、家齊ヒ國治マル。一日之ヲ去レバ則チ人、人欲ヲ縱ニシテ、爭鬪犯亂、至ラザル所無シ。其禽獸ヲ去ルコト幾何ゾヤ。必

ズ當サニ恭敬謙遜ヲ主トシ、進退動止須臾モ禮讓ニ離レザルベシ。則チ萬物ノ靈タルニ愧ヂザルナリ。

儉素第十一 人各々貴賤貧富ノ分アリ。故ニ其分ニ隨ヒテ、財用ヲ節シ儉素ヲ守ルハ、天道ヲ敬シ、人福ヲ享クル所以ナリ。苟モ意ヲ肆ニシテ奢侈ニ趨ケバ、必ず殃咎ヲ致ス。甚シキハ則チ身ヲ喪ヒ、家ヲ亡スニ至ル。慎マザルベケムヤ。若シ夫レ、徒ニ財利ヲ愛シ、當サニ散ズベクシテ散ゼザルハ各ナリ、儉ニ非ズ。儉各ノ別、亦當サニ審ニスベキ所ナリ。

忍耐第十二 人志有リト雖モ、忍ブコト有ラザルモノハ、事中道ニシテ廢ス。唯能ク忍ブコト有リテ、垢ヲ含ミ、恥ヲ蒙リ、艱苦ヲ甘ンジ、危患ヲ踐ム者、乃チ其志ヲ成スコトヲ得ム。之ヲ泉水ノ深山ニ出デテ、江海ニ達スルニ譬フ。其能ク然ル所以ノ者ハ、巖石ノ爲ニ盈進ヲ廢セザレバナリ。忍耐ノ効、亦大ナラズヤ。

貞操第十三 女子父母ノ家ニ在ルトキハ、幽閑靜淑、敢テ非禮ニ從ハズ。嫁シテ人ノ妻ト爲ルトキハ、又終身他靡ク、事變ニ遭ヒテ其守ヲ易ヘズ。是ヲ之貞操ト謂フ。婦

徳ノ尤モ大ナル者ナリ。故ニ柔順惠和、要訓ニ非ザル無シト雖モ、特ニ此ヲ以テ先トス。婦女其レ之ヲ體セザル可ケムヤ。

廉潔第十四 凡ソ人、義ヲ立テ道ヲ行ハムト欲セバ、廉潔ナラザル可カラズ。能ク廉潔自ラ持シテ、營利ニ誘ハレズ、而シテ後、義以テ立ツ可シ、道以テ行フ可シ。苟モ貪汗ノ心有リテ、爲スベカラザルコトヲ爲シ、取ル可カラザルモノヲ取ルトキハ、則チ義ヲ傷リ、道ヲ害フ。人ノ子ニ在リテハ不孝ナリ。人ノ臣ニ在リテハ不忠ナリ。事功有

リト雖モ、復多トスルニ足ラズ。此レ廉潔ノ當サニ務ムベキ所以ナリ。

敏智第十五 智ノ人ニ於ケル其用誠ニ大ナリ。然レドモ貴ブ所ハ、事理ニ敏ニシテ機宜ニ中ルニ在リ。若シ徒ニ捷急ニ驚セ、利巧ニ趨ルトキハ、其害亦甚シ。故ニ忠信ヲ以テ本ト爲シ、道理ヲ以テ砥礪ト爲シ、研磨シテ已マザレバ、則チ觸ル、所敏達洞徹、天下ノ事ニ於テ、亨ラザルコト無シ。

剛勇第十六 人能ク剛勇ナレバ、事ニ當リテ奮進シ、屈セ

ズ撓マズ、以テ其道ヲ盡スコトヲ得。苟モ怯懦ナレバ、道理ヲ知ルト雖モ、或ハ利害ニ移サレテ、自ラ持スルコト能ハズ。故ニ必ズ當サニ義ヲ集メ、氣ヲ養ヒ、以テ其心ヲ持スベシ。則チ柔者モ必ズ剛、怯者モ必ズ勇ナリ。

公平第十七 夫レ鑑ノ照ス所、人其美醜ヲ争ハズ。公ナレバナリ。衡ノ稱フル所、人其輕重ヲ議セズ。平ナレバナリ。故ニ大公至平、以テ國家ニ臨マバ、何ゾ其治ラザルヲ患ヘムヤ。苟モ偏私有ルトキハ、則チ人服セズシテ、衆從ハズ。小ナルハ怨讟ヲ取り、大ナルハ叛亂ヲ致ス。治

亂ノ機慎マザル可ケムヤ。

度量第十八 寛裕ニシテ容ル、コト有ル之ヲ度量ト謂フ。度量ハ善ヲ聚メ、衆ヲ得ル所以ニシテ、盛徳大業、此ニ資リテ以テ成ル。故ニ人當サニ務メテ其規模ヲ大ニシ、小利ヲ視ズ、近功ヲ計ラザルベシ。則チ胸中自ラ寛裕ニシテ、成就スル所、必ズ宏遠ナラム。

識斷第十九 識明ナレバ善ク斷ズ。明識善斷ハ大謀ヲ決シ、大事ヲ定ムル所以ニシテ、天下復難キ者無シ。是亦理ヲ窮メ意ヲ誠ニスルノ至リナリ。

勉職第二十 人ノ天地ノ間ニ生ル、上天子ヨリ下庶人ニ至ルマデ職有ラザルハ莫シ。既ニ職アリ、一日之ヲ怠レバ、罪ヲ天地ニ獲。焉ゾ之ヲ勉メザルヲ得ムヤ。人々其職ノ當サニ爲スベキ所ヲ勉メテ、其外ヲ願ハザルトキハ、邦國治安ニシテ、上下共ニ景福ヲ受ク、豈美ナラズヤ。

明治天皇憲法發布ノ勅語

明治二十二年二月十一日

朕國家ノ隆昌ト臣民ノ慶福トヲ以テ中心ノ欣榮トシ、朕
ガ祖宗ニ承クルノ大權ニ依リ、現在及將來ノ臣民ニ對シ、
此ノ不磨ノ大典ヲ宣布ス。惟フニ我が祖我が宗ハ、我が
臣民祖先ノ協力輔翼ニ倚リ、我が帝國ヲ肇造シ以テ無窮
ニ垂レタリ。此レ我が神聖ナル祖宗ノ威徳ト、竝ニ臣民
ノ忠實勇武ニシテ、國ヲ愛シ公ニ殉ヒ、以テ此ノ光輝アル
國史ノ成跡ヲ貽シタルナリ。朕我が臣民ハ、即チ祖宗ノ

忠良ナル臣民ノ子孫ナルヲ回想シ、其ノ朕ガ意ヲ奉體シ
朕ガ事ヲ獎順シ、相與ニ和衷協同シ、益、我が帝國ノ光榮ヲ
中外ニ宣揚シ、祖宗ノ遺業ヲ永久ニ鞏固ナラシムルノ希
望ヲ同クシ、此ノ負擔ヲ分ツニ堪フルコトヲ疑ハザルナ
リ。

明治天皇皇室典範及憲法制定ニ

ツキテノ御告文

明治二十二年二月十一日

皇朕^{スミダラツ}レ謹ミ畏ミ、

皇祖

皇宗ノ神靈ニ誥^ツゲ白サク、皇朕レ天壤無窮ノ宏謨ニ循ヒ、
惟神ノ寶祚ヲ承繼シ、舊圖ヲ保持シテ敢テ失墜スルコト
無シ。顧ミルニ世局ノ進運ニ膺^ツリ、人文ノ發達ニ隨ヒ、宜
ク

皇祖

皇宗ノ遺訓ヲ明徴ニシ、典憲ヲ成立シ條章ヲ照示シ、内ハ
以テ子孫ノ率由スル所ト爲シ、外ハ以テ臣民翼贊ノ道ヲ
廣メ、永遠ニ遵行セシメ、益、國家ノ丕^ヒ基ヲ鞏固ニシ、八洲民
生ノ慶福ヲ増進スベシ。茲ニ皇室典範及憲法ヲ制定ス。
惟フニ此レ皆

皇祖

皇宗ノ後裔ニ貽^トシタマヘル統治ノ洪範ヲ、紹述スルニ外
ナラズ、而シテ朕ガ躬ニ逮^トンデ時ト俱ニ舉行スルコト
ヲ得ルハ、洵ニ

皇祖

皇宗及我が

皇考ノ威靈ニ倚藉スルニ由ラザルハ無シ。皇朕レ仰イ
デ

皇祖

皇宗及

皇考ノ神祐ヲ禱リ、併セテ朕ガ現在及將來ニ、臣民ニ率先
シ此ノ憲章ヲ履行シテ愆ラザラムコトヲ誓フ。庶幾ク
ハ

神靈此レヲ鑒ミタマヘ。

明治天皇憲法發布ノ詔

明治二十二年二月十一日

朕祖宗ノ遺烈ヲ承ケ、萬世一系ノ帝位ヲ踐ミ、朕ガ親愛スル所ノ臣民ハ、卽チ朕ガ祖宗ノ惠撫慈養シタマヒシ所ノ臣民ナルヲ念ヒ、其康福ヲ増進シ、其懿德良能ヲ發達セシムコトヲ願ヒ、又其翼贊ニヨリ與ニ俱ニ國家ノ進運ヲ扶持セムコトヲ望ミ、乃チ明治十四年十月十二日ノ詔命ヲ履踐シ、茲ニ大憲ヲ制定シ、朕ガ率由スル所ヲ示シ、朕ガ後嗣及臣民及臣民ノ子孫タル者ヲシテ、永遠ニ循行スル

所ヲ知ラシム。

國家統治ノ大權ハ、朕ガ之ヲ祖宗ニ承ケテ、之ヲ子孫ニ傳フル所ナリ。朕及朕ガ子孫ハ、將來此憲法ノ條章ニ循ヒ、之ヲ行フコトヲ愆ラザルベシ。朕ハ我が臣民ノ權利及憲法及法律ノ範圍内ニ於テ、其享有ヲ完全ナラシムベキコトヲ宣言ス。

明治天皇教育ニ關スル勅語

明治二十三年十月三十日

朕惟フニ、我が皇祖皇宗國ヲ肇ムルコト宏遠ニ、徳ヲ樹ツルコト深厚ナリ。我が臣民、克ク忠ニ克ク孝ニ、億兆心ヲ一ニシテ世々厥ノ美ヲ濟セルハ、此レ我が國體ノ精華ニシテ教育ノ淵源亦實ニ此ニ存ス。爾臣民、父母ニ孝ニ兄弟ニ友ニ、夫婦相和シ朋友相信ジ、恭儉己レヲ持シ博愛衆ニ及ボシ、學ヲ修メ業ヲ習ヒ、以テ智能ヲ啓發シ德器ヲ成就シ、進ンデ公益ヲ廣メ世務ヲ開キ、常ニ國憲ヲ重ンジ國

法ニ遵ヒ、一旦緩急アレバ義勇公ニ奉ジ、以テ天壤無窮ノ皇運ヲ扶翼スベシ。是ノ如キハ獨リ朕ガ忠良ノ臣民タルノミナラズ、又以テ爾祖先ノ遺風ヲ顯彰スルニ足ラン。斯ノ道ハ實ニ我が皇祖皇宗ノ遺訓ニシテ、子孫臣民ノ俱ニ遵守スベキ所之ヲ古今ニ通ジテ謬ラズ、之ヲ中外ニ施シテ悖ラズ。朕爾臣民ト俱ニ拳々服膺シテ、咸其徳ヲ一ニセンコトヲ庶幾フ。

明治天皇第一帝國議會開院式ノ勅語

明治二十三年十月二十九日

朕貴族院及衆議院ノ各員ニ告グ。

朕即位以來二十年間ノ經始スル所、内治諸般ノ制度粗其綱領ヲ舉ゲタリ。庶幾クハ皇祖皇宗ノ遺德ニ倚リ、卿等ト俱ニ前ヲ繼ギ後ヲ啓キ、憲法ノ美果ヲ收メ、以テ將來益、我が帝國ノ光烈ト、我が臣民ノ忠良ニシテ勇進ナル氣性ヲシテ、中外ニ表明ナラシムルコトヲ得ム。

朕又夙ニ諸國ト盟好ヲ修メ通商ヲ廣メ、國勢ヲ擴張セン

コトヲ期ス。幸ニ締盟諸國ノ交際ハ益、親厚ヲ加ヘタリ。陸海ノ軍備ハ内外ノ平和ヲ保全スル爲ニ、歲ヲ積ミ完實ヲ期セザルベカラズ。

明治二十四年度ノ豫算各般法律案ハ、朕之ヲ國務大臣ニ命ジテ議會ノ議ニ附セシム。朕ハ卿等ノ公平慎重ヲ以テ、審議協賛スル所アルコトヲ期シ、併セテ將來ニ告グベキノ模範ヲ貽サンコトヲ望ム。

明治天皇戊申詔書

明治四十一年十月十三日

朕惟フニ、方今人文日ニ就リ月ニ將ミ、東西相倚リ彼此相濟シ、以テ其ノ福利ヲ共ニス。朕ハ爰ニ益、國交ヲ修メ友義ヲ惇シ、列國ト與ニ永ク其ノ慶ニ賴ラムコトヲ期ス。顧ミルニ、日進ノ大勢ニ伴ヒ文明ノ惠澤ヲ共ニセムトスル、固ヨリ内國運ノ發展ニ須ツ。戰後日尙淺ク庶政益、更張ヲ要ス。宜ク上下心ヲ一ニシ、忠實業ニ服シ勤儉產ヲ治メ、惟レ信惟レ義、醇厚俗ヲ成シ、華ヲ去リ實ニ就キ、荒怠

相誠メ自彊息マザルベシ。

抑、我が神聖ナル祖宗ノ遺訓ト、我カ光輝アル國史ノ成跡トハ、炳トシテ日星ノ如シ。定ニ克ク恪守シ淬礪ノ誠ヲ輸サバ、國運發展ノ本近ク斯ニ在リ。朕ハ方今ノ世局ニ處シ、我カ忠良ナル臣民ノ協翼ニ倚藉シテ、維新ノ皇猷ヲ恢弘シ祖宗ノ威德ヲ對揚セムコトヲ庶幾フ。爾臣民、其レ克ク朕ガ旨ヲ體セヨ。

大正天皇即位式勅語

大正四年十一月十日

朕祖宗ノ遺烈ヲ承ケ、惟神ノ寶祚ヲ踐ミ、爰ニ即位ノ禮ヲ行ヒ、普ク爾臣民ニ誥グ。

朕惟フニ、皇祖皇宗國ヲ肇メ基ヲ建テ、列聖統ヲ紹ギ裕ヲ垂レ、天壤無窮ノ神勅ニ依リテ萬世一系ノ帝位ヲ傳ヘ、神器ヲ奉ジテ八洲ニ臨ミ、皇化ヲ宣ベテ蒼生ヲ撫ス。爾臣民世々相繼ギ忠實公ニ奉ズ。義ハ即チ君臣ニシテ情ハ猶父子ノゴトク、以テ萬邦無比ノ國體ヲ成セリ。

皇考維新ノ盛運ヲ啓キ、開國ノ宏謨ヲ定メ、祖訓ヲ紹述シテ不磨ノ大典ヲ布キ、皇圖ヲ恢弘シテ曠古ノ偉業ヲ樹ツ。聖德四表ニ光被シ仁澤遐陬ニ霑洽ス。朕今丕績ヲ繼ギ遺範ニ遵ヒ、内ハ邦基ヲ固クシテ永ク磐石ノ安ヲ圖リ、外ハ國交ヲ敦クシテ共ニ平和ノ慶ニ賴ラムトス。朕ガ祖宗ニ負フ所極メテ重シ。祖宗ノ神靈照鑑上ニ在リ。朕夙夜兢業天職ヲ全クセムコトヲ期ス。朕ハ爾臣民ノ忠誠其ノ分ヲ守リ、勵精其ノ業ニ從ヒ、以テ皇運ヲ扶翼スルコトヲ知ル。庶幾クハ心ヲ同クシ力ヲ戮セ、倍々國光ヲ

顯揚セムコトヲ。爾臣民其レ克ク朕ガ意ヲ體セヨ。

大正天皇國民精神作興ニ關スル詔書

大正十二年十一月十日

朕惟フニ、國家興隆ノ本ハ國民精神ノ剛健ニ在リ。之ヲ
涵養シ、之ヲ振作シテ以テ國本ヲ固クセザルベカラズ。
是ヲ以テ先帝意ヲ教育ニ留メサセラレ、國體ニ基キ淵源
ニ遡リ、皇祖皇宗ノ遺訓ヲ掲ゲテ其ノ大綱ヲ昭示シタマ
ヒ、後又臣民ニ詔シテ、忠實勤儉ヲ勸メ、信義ノ訓ヲ申^カネテ
荒怠ノ誠ヲ垂レタマヘリ。是レ皆道德ヲ尊重シテ、國民
精神ヲ涵養振作スル所以ノ洪謨ニ非ザルナシ。爾來趨

向一定シテ、效果大ニ著レ以テ國家ノ興隆ヲ致セリ。朕
 卽位以來、夙夜兢兢トシテ常ニ紹述ヲ思ヒシニ、俄ニ災變
 ニ遭ヒテ憂悚交至レリ。

輓近學術益開ケ人智日ニ進ム。然レドモ浮華放縱ノ習
 漸ク萌シ、輕佻詭激ノ風モ亦生ズ。今ニ及ビテ時弊ヲ革
 メズムバ、或ハ前緒ヲ失墜セムコトヲ恐ル。況ヤ今次ノ
 災禍甚ダ大ニシテ、文化ノ紹復國力ノ振興ハ、皆國民ノ精
 神ニ待ツチャ。是レ實ニ上下協戮振作更張ノ時ナリ。
 振作更張ノ道ハ他ナシ。先帝ノ聖訓ニ恪遵シテ、其ノ實

效ヲ舉グルニ在ルノミ。宜ク教育ノ淵源ヲ崇ビテ智德
 ノ竝進ヲ努メ、綱紀ヲ肅正シ風俗ヲ匡勵シ、浮華放縱ヲ斥
 ケテ質實剛健ニ趨キ、輕佻詭激ヲ矯メテ醇厚中正ニ歸シ
 人倫ヲ明ニシテ親和ヲ致シ、公德ヲ守リテ秩序ヲ保チ、責
 任ヲ重ジ節制ヲ尙ビ、忠孝義勇ノ美ヲ揚ゲ、博愛共存ノ誼
 チ篤クシ、入リテハ恭儉勤敏業ニ服シ産ヲ治メ、出デテハ
 一己ノ利害ニ偏セズシテ力ヲ公益世務ニ竭シ、以テ國家
 ノ興隆ト民族ノ安榮社會ノ福祉トヲ圖ルベシ。朕ハ臣
 民ノ協翼ニ頼リテ彌、國本ヲ固クシ、以テ大業ヲ恢弘セム

コトヲ冀フ。爾臣民其レ之ヲ勉メヨ。

今上陛下朝見ノ儀ニ於テ賜ハリタル

勅語

昭和元年十二月二十八日

朕皇祖皇宗ノ威靈ニ頼リ、萬世一系ノ皇位ヲ繼承シ、帝國
統治ノ大權ヲ總攬シ以テ踐祚ノ式ヲ行ヘリ。舊章ニ率
由シ先德ヲ聿修シ、祖宗ノ遺緒ヲ墜ス無カラシムコトヲ庶
幾フ。

惟フニ、皇祖考叡聖文武ノ資ヲ以テ天業ヲ恢弘シ、内文教
ヲ敷キ外武功ヲ耀カシ、千載不磨ノ憲章ヲ頒チ萬邦無比
ノ國體ヲ鞏クセリ。皇考夙ニ心ヲ養正ニ宅キ、廼チ志ヲ

繼明ニ尙ク^{タカ}ス。不幸中道ニシテ聖體ノ不豫ナル、朕儲貳^チヲ以テ大政ヲ攝ス。遽ニ登遐ニ遭ヒテ哀痛極リ罔シ。但皇位ハ一日モ之ヲ曠クスベカラズ。萬機ハ一日モ之ヲ廢スベカラズ。哀ヲ銜ミ痛ヲ懷キ、以テ大統ヲ嗣ゲリ。朕ノ寡薄ナル唯兢業トシテ、負荷ノ重キニ任ヘザランコトヲ之レ懼ル。

輓近世態漸ク以テ推移シ、思想ハ動モスレバ趣舍相異ナルアリ。經濟ハ時ニ利害同ジカラザルアリ。此レ宜ク眼ヲ國家ノ大局ニ著ケ、舉國一體共榮ヲ之レ圖リ、國本ニ

不拔ニ培ヒ、民族ヲ無疆ニ蕃クシ、以テ維新ノ宏謨ヲ顯揚センコトヲ懋ムベシ。

今ヤ世局ハ正ニ會通ノ運ニ際シ、人文ハ恰モ更張ノ期ニ膺ル。則チ我國ノ國是ハ日ニ進ムニ在リ、日ニ新ニスルニ在リ。而シテ博ク中外ノ史ニ徵シ、審ニ得失ノ迹ニ鑒ミ、進ムヤ其ノ序ニ循ヒ、新ニスルヤ其ノ中ヲ執ル。是レ深ク心ヲ用フベキ所ナリ。

夫レ浮華ヲ斥ケ質實ヲ尙ビ、摸擬ヲ戒メ創造ヲ勗メ、日進以テ會通ノ運ニ乗ジ、日新以テ更張ノ期ヲ啓キ、人心惟レ

同ジク民風惟レ和シ、況ク一視同仁ノ化ヲ宣ベ永ク四海
同胞ノ誼ヲ敦クセンコト、是レ朕ガ軫念最モ切ナル所ニ
シテ、丕顯ナル皇祖考ノ遺訓ヲ明徴ニシ、丕承ナル皇考ノ
遺志ヲ繼述スル所以ノモノ實ニ此ニ存ス。有司其レ克
ク朕ガ意ヲ體シ、皇祖考暨ビ皇考ニ效セシ所ヲ以テ朕カ
躬ヲ匡弼シ、朕ガ事ヲ獎順シ、億兆臣民ト俱ニ天壤無窮ノ
寶祚ヲ扶翼セヨ。

今上陛下即位式勅語

昭和三年十一月十日

朕惟フニ、我が皇祖皇宗惟神ノ大道ニ遵ヒ、天業ヲ經綸シ、
萬世不易ノ丕基ヲ肇メ、一系無窮ノ永祚ヲ傳ヘ、以テ朕ガ
躬ニ逮ベリ。朕祖宗ノ威靈ニ頼リ、敬ミテ大統ヲ承ケ、恭
シク神器ヲ奉ジ茲ニ即位ノ禮ヲ行ヒ、昭ニ爾有衆ニ誥グ。
皇祖皇宗國ヲ建テ民ニ臨ムヤ、國ヲ以テ家ト爲シ民ヲ視
ルコト子ノ如シ。列聖相承ケテ仁恕ノ化下ニ洽ク、兆民
相率キテ敬忠ノ俗上ニ奉ジ、上下感孚シ君民體ヲ一ニス。

是レ我が國體ノ精華ニシテ、當ニ天地ト竝ビ存スベキ所ナリ。皇祖考古今ニ鑒ミテ維新ノ鴻圖ヲ闢キ、中外ニ徵シテ立憲ノ遠猶ヲ敷キ、文ヲ經トシ武ヲ緯トシ、以テ曠世ノ大業ヲ建ツ。皇考先朝ノ宏謨ヲ繼紹シ、中興ノ丕績ヲ恢弘シ以テ皇風ヲ宇内ニ宣ブ。朕寡薄ヲ以テ恭シク遺緒ヲ嗣ギ、祖宗ノ擁護ト億兆ノ翼戴トニ頼リ、以テ天職ヲ治メ墜スコト無ク愆ツコト無カラシコトヲ庶幾フ。

朕内ハ則チ教化ヲ醇厚ニシ、愈、民心ノ和會ヲ致シ、益、國運ノ隆昌ヲ進メムコトヲ念ヒ、外ハ則チ國交ヲ親善ニシ、永

ク世界ノ平和ヲ保チ、普ク人類ノ福祉ヲ益サンコトヲ冀フ。爾有衆其レ心ヲ協ヘ力ヲ戮セ、私ヲ忘レ公ニ奉ジ、以テ朕ガ志ヲ弼成シ、朕ヲシテ祖宗作述ノ遺烈ヲ揚ゲ、以テ祖宗神靈ノ降鑒ニ對フルコトヲ得シメヨ。

今上陛下國際聯盟脫退ノ詔書

昭和八年三月二十七日

朕惟フニ曩ニ世界平和克復シテ國際聯盟ノ成立スルヤ、皇考之ヲ懌^{おそ}ビテ帝國ノ參加ヲ命ジタマヒ、朕亦遺緒ヲ繼承シテ苟^{たゞ}モ懈^{おろ}ラズ、前後十有三年其ノ協力ニ終始セリ。今次滿洲國ノ新興ニ當リ、帝國ハ其ノ獨立ヲ尊重シ、健全ナル發達ヲ促スタテ、東亞ノ禍根ヲ除キ世界ノ平和ヲ保ツノ基ナリト爲ス。然ルニ不幸ニシテ聯盟ノ所見之^{こゝ}ト背馳^{へん}スルモノアリ。朕乃チ政府ヲシテ慎重審議遂ニ

聯盟ヲ離脱スルノ措置ヲ採ラシムルニ至レリ。

然リト雖モ國際平和ノ確立ハ、朕常ニ之ヲ冀^{ねが}求^むシテ止マズ。是ヲ以テ平和各般ノ企圖ハ、向後亦協力シテ渝^かルナシ。今ヤ聯盟ト手ヲ分チ帝國ノ所信ニ是レ從フト雖モ、固ヨリ東亞ニ偏シテ友邦ノ誼ヲ疎^そカニスルモノニアラズ。愈^い信^まチ國際ニ篤クシ大義ヲ宇内ニ顯揚スルハ、夙夜朕ガ念トスル所ナリ。

方今列國ハ稀有ノ世變ニ際會シ、帝國亦非常ノ時艱ニ遭遇ス。是レ正ニ舉國振張ノ秋ナリ。爾臣民克ク朕カ意

ヲ體シ文武互ニ其ノ職分ニ恪循シ衆庶各其ノ業務ニ淬
勵シ嚮フ所正ヲ履ミ行フ所中ヲ執リ協戮邁往以テ此ノ
世局ニ處シ進ミテ皇祖考ノ聖猷ヲ翼成シ普ク人類ノ福
祉ニ貢獻セムコトヲ期セヨ。

大 祓 詞

高天原爾神留坐須皇賀親神漏岐神漏美命以知兵八百萬
神等乎神集閉爾集賜比神議里爾議賜比兵皇御孫命波豐
葦原水穗國乎安國登平介久知食世登事依奉里伎此久
依奉里志國中爾荒振神等乎婆神問波志爾問賜比神掃比
爾掃賜比兵語問比志磐根樹根立草乃片葉乎母語止米兵
天乃磐座放知天乃八重雲乎伊頭乃千別伎爾千別伎兵天
降志依奉里伎此久依奉里志四方乃國中登大倭日高見

國乎安國登定奉里氏下都磐根爾宮柱太敷立氏高原爾
 千木高知里氏皇神孫命乃瑞乃御殿仕奉里氏天乃御蔭日
 乃御蔭登隱坐志氏安國登平介久知食左牟國中爾成出傳
 牟天乃益人等賀過犯志介牟種種乃罪事波天都罪國都罪
 許許太久乃罪出傳牟。此久出傳婆天都宮事以知氏天都
 金木乎本打切里末打斷知氏千座乃置座爾置足波志氏天
 都菅麻乎本刈斷知末刈切里氏八針爾取辟伎氏天都祝詞
 乃太祝詞事乎宣禮。此久宣良婆天都神波天乃磐門乎押
 披伎氏天乃八重雲乎伊頭乃千別伎爾千別伎氏聞食左牟

國都神波高山乃末短山乃末爾上坐志氏高山乃伊褒理短
 山乃伊褒理乎搔別介氏聞食左牟。此久聞食志氏婆罪登
 云布罪波在良自登科戶乃風乃天乃八重雲乎吹放都事乃
 如久朝乃御霧夕乃御霧乎朝風夕風乃吹拂布事乃如久大
 津邊爾居留大船乎舳解放知艦解放知氏大海原爾押放都
 事乃如久彼方乃繁木賀本乎燒鎌乃敏鎌以知氏打掃布事
 乃如久遺留罪波在良自登祓給比清給布事乎高山乃末短
 山乃末與異佐久那太理爾落多岐都速川乃瀬爾坐須瀬織
 津比賣登云布神大海原爾持出傳奈牟此久持出往奈婆荒

潮乃潮乃八百道乃入潮道乃鹽乃八百會爾坐須速開都比
 賣登云布神持加加吞美氏牟。此久加加吞美氏婆氣吹戶
 爾坐須氣吹戶主登云布神根國底國爾氣吹放知氏牟。此
 久氣吹放知氏婆根國底國爾坐須速佐須良比賣登云布神
 持佐須良比失比氏牟。此久失比氏婆今日與里始米氏罪
 登云布罪波在良自登今日乃夕日乃降乃大祓爾祓給比清
 給布事乎諸聞食世登宣留。

(日乃本教典ニヨル)

祈年祭祝詞

高天原爾神留坐皇睦神漏伎命神漏美命以天社國社登稱
 辭竟奉皇神等能前爾白久今年二月爾御年初將給登爲而
 皇御孫命能宇豆能幣帛乎朝日能豐逆登爾稱辭竟奉久登
 宣。御年皇神等能前爾白久皇神等能依左志奉牟與津御
 年乎手肱爾水沫畫垂向股爾泥畫寄氏取作牟與津御年乎
 八束穗能伊加志穗爾皇神等能依左志奉者初穗乎婆千穎
 八百穎爾奉置氏懸閉高知懸腹滿雙氏汁爾母穎爾母稱辭

竟奉^{アヘ}奉^ム。大野原^{オホノハラ}爾^ニ生物者^{ヒナモノ}、甘菜^{カンサイ}、辛菜^{シンサイ}、青海原^{アヲハラ}爾^ニ住物者^{スミモノ}、鰭^{ハナ}能^レ
 廣物^{ヒロモノ}、鰭^{ハナ}能^レ狹物^{ヒサモノ}、奥津藻菜^{オクツモ}、邊津藻菜^{ヘツモ}、爾^ニ至^ル氏^{ウヂ}能^レ御服者^{ミツクモノ}、明妙照^{アカササ}
 妙和^{アカササ}、妙荒^{アカササ}、妙爾^ニ稱^ヘ辭^ハ竟奉^ム。御年^{ミトシ}皇神^{ミカミ}能^レ前^{マヘ}爾^ニ白馬^{シロウマ}、白猪^{シロブタ}
 鷄種^{カケタ}々色^{シキ}物^{モノ}乎^ニ備奉^ム、氏^{ウヂ}皇御孫命^{ミコトノ}能^レ宇豆^{ウヅ}乃^ニ幣帛^{ヒテ}乎^ニ稱^ヘ辭^ハ竟奉^ム
 久登^{クニ}宣^{ノル}。大御巫^{オホミカミ}能^レ稱^ヘ辭^ハ竟奉^ム、皇神等^{ミカミ}能^レ前^{マヘ}爾^ニ白久^{シロク}神魂^{カミ}、高御^{タカミ}
 魂^{カミ}生^ヒ魂^{カミ}、足魂^{タラシカミ}、玉留魂^{タマドモカミ}、大宮^{オホミヤ}乃^ニ賣^ル、大御膳^{オホミツク}都神^{ツクカミ}、辭^ハ代^{シロ}主^{ヌシ}登^ト、御名者^{ミナナ}
 白而^{シロシテ}辭^ハ竟奉^ム者^{モノ}、皇御孫命^{ミコトノ}御世^{ミヨ}乎^ニ、手長^{テナガ}御世^{ミヨ}登^ト、堅磐^{ツクハ}爾^ニ常磐^{ツクハ}爾^ニ
 齊奉^{イヒマツル}、茂御世^{モトミヨ}爾^ニ幸^ハ閉奉^ム故^{コト}爾^ニ、皇吾睦^{ミカミ}神漏伎命^{シロコトカミ}、神漏美命^{シロトミカミ}、登^ト、皇^{ミコ}
 御孫命^{ミコトノ}能^レ宇豆^{ウヅ}乃^ニ幣帛^{ヒテ}乎^ニ、稱^ヘ辭^ハ竟奉^ム、久登^{クニ}宣^{ノル}。座摩^{イハ}乃^ニ御巫^{ミカミ}乃^ニ

稱^ヘ辭^ハ竟奉^ム、皇神等^{ミカミ}能^レ前^{マヘ}爾^ニ白久^{シロク}生井^{ナガ}、榮井^{サカ}、津長井^{ツナガ}、阿須波^{アスハ}、波比^{ハヒ}
 支^{ササ}、登^ト、御名者^{ミナナ}白^{シロ}氏^{ウヂ}、辭^ハ竟奉^ム者^{モノ}、皇神^{ミカミ}能^レ敷坐^{シカ}、下都磐根^{シモツクハ}爾^ニ宮柱^{ミヤハシラ}太^タ
 知立^{チタテ}、高天原^{タカマノハラ}爾^ニ千木^{チキ}、高知^{タカチ}、氏^{ウヂ}皇御孫命^{ミコトノ}乃^ニ瑞^{ミツ}能^レ御舍^{ミツカ}乎^ニ、仕奉^ム、氏^{ウヂ}
 天御陰^{アメノカゲ}、日御陰^{ヒノカゲ}、登^ト、隱坐^{カクレマシ}、氏^{ウヂ}四方國^{ヨナクニ}乎^ニ、安國^{ヤスクニ}、登^ト、平久^{ヒラク}、知食^{チシク}、故^{コト}、皇御^{ミカミ}
 孫命^{ミコトノ}能^レ宇豆^{ウヅ}乃^ニ幣帛^{ヒテ}乎^ニ、稱^ヘ辭^ハ竟奉^ム、久登^{クニ}宣^{ノル}。御門^{ミカド}能^レ御巫^{ミカミ}能^レ稱^ヘ
 辭^ハ竟奉^ム、皇神等^{ミカミ}能^レ前^{マヘ}爾^ニ白久^{シロク}、櫛磐^{シロイハ}、間門命^{マドノミコト}、豐磐^{トヨイハ}、間門命^{マドノミコト}、登^ト、御名^{ミナナ}
 者^{モノ}、白^{シロ}氏^{ウヂ}、辭^ハ竟奉^ム者^{モノ}、四方^{ヨナカ}能^レ御門^{ミカド}爾^ニ、湯津磐^{ユツイハ}、村^{ムラ}能^レ如寒坐^{サマリマシ}、氏^{ウヂ}朝者^{アサシタモノ}
 御門^{ミカド}開奉^ム、夕者^{ユフモノ}、御門^{ミカド}閉奉^ム、氏^{ウヂ}疎夫^{ソトウ}留物^{ルモノ}能^レ自下^{ヨリ}往者^{ユキ}、下^{シタ}乎^ニ、守^{モリ}、自^{ヨリ}
 上^{ヨリ}往者^{ユキ}、上^{ヨリ}乎^ニ、守^{モリ}、夜^ヨ能^レ守^{モリ}、日^ヒ乃^ニ守^{モリ}、爾^ニ守^{モリ}、奉^ム、故^{コト}、皇御孫命^{ミコトノ}能^レ宇豆^{ウヅ}乃^ニ

幣帛乎稱辭竟奉久登宣。生島能御巫能辭竟奉皇神等能
 前爾白久生國足國登御名者白氏辭竟奉者皇神能敷坐島
 能八十島者谷蟆能狹度極鹽沫能留限狹國者廣久峻國者
 平久島能八十島墮事無皇神等能依左志奉故皇御孫命能
 宇豆乃幣帛乎稱辭竟奉久登宣。辭別伊勢爾坐天照大神
 能大前爾白久皇神能見霽志坐四方國者天能壁立極國能
 退立限青雲能靄極白雲能墜坐向伏限青海原者棹柁不干
 舟艦能至留極大海原爾舟滿都都氣氏自陸往道者荷緒縛
 堅氏磐根木根履佐久彌氏馬爪至留限長道無間久立都都

氣氏狹國者廣久峻國者平久遠國者八十綱打掛氏引寄如
 事皇大御神能寄奉波荷前者皇大御神能大前爾如橫山打
 積置氏殘乎波平聞看。又皇御孫命御世乎手長御世登堅
 磐爾常磐爾齊奉茂御世爾幸閉奉故皇吾睦神漏伎神漏彌
 命登宇事物頸根衝拔氏皇御孫命能宇豆乃幣帛乎稱辭竟
 奉久登宣。御縣二坐皇神等能前爾白久高市葛木十市志
 貴山邊曾布登御名者白氏此六御縣爾生出甘菜辛菜乎持
 參來氏皇御孫命能長御膳能遠御膳登聞食故皇御孫命能
 宇豆乃幣帛乎稱辭竟奉久登宣。山口坐皇神等能前爾白

久^ク飛^ア鳥^カ石^イ村^ハ忍^オ坂^サ長^ハ谷^セ畝^ウ火^ヒ耳^ミ無^ナ御^ナ名^ハ者^ハ白^マ氏^シ遠^ト山^ホ近^チ山^カ爾^ニ生^オ
 立^テ留^ル大^ナ木^キ小^コ木^キ乎^フ本^モ末^ト打^ウ切^チ氏^シ持^モ參^マ來^キ氏^シ皇^ス御^ミ孫^ノ命^ノ能^シ瑞^ミ能^シ御^ミ
 舍^ア仕^カ奉^ヘ氏^シ天^{アメ}御^ミ陰^カ日^ヒ御^ミ陰^カ登^ト隱^カ坐^マ氏^シ四^ヨ方^ク國^ニ乎^フ安^ヤ國^ニ登^ト平^ヘ久^ク知^ル
 食^シ須^ス賀^ガ故^コ皇^ス御^ミ孫^ノ命^ノ能^シ宇^ウ豆^フ乃^フ幣^ヒ帛^フ乎^フ稱^ア辭^ハ竟^ヘ奉^ラ久^ク登^ト宣^ス。水^ミ
 分^ワ坐^リ皇^ス神^ニ等^ニ能^シ前^マ爾^ニ白^ク久^ク吉^ク野^ノ宇^ウ陀^ツ都^ケ祢^カ葛^カ城^ギ登^ト御^ミ名^ハ者^ハ白^マ氏^シ
 辭^ト竟^ヘ奉^ラ者^ハ皇^ス神^ニ等^ニ能^シ寄^ヨ志^シ奉^ラ牟^ム奧^オ都^ツ御^ミ年^ト乎^フ八^ヤ束^ツ穗^ホ能^シ伊^イ加^カ志^シ
 穗^ホ爾^ニ寄^ヨ志^シ奉^ラ者^ハ皇^ス神^ニ等^ニ能^シ初^{ハツ}穗^ホ波^ハ穎^カ爾^ニ母^モ汁^シ爾^ニ母^モ懸^カ閉^ヘ高^タ知^チ懸^カ
 腹^ハ滿^ミ雙^{ソウ}氏^シ稱^ア辭^ハ竟^ヘ奉^ラ氏^シ遺^ノ乎^フ波^ハ皇^ス御^ミ孫^ノ命^ノ能^シ朝^ア御^ミ食^ケ夕^ツ御^ミ食^ケ能^シ
 加^カ牟^ム加^カ比^ヒ爾^ニ長^ナ御^ミ食^ケ能^シ遠^ト御^ミ食^ケ登^ト赤^{アカ}丹^ニ穗^ホ爾^ニ閒^カ食^ケ故^コ皇^ス御^ミ孫^ノ命^ノ

能^ノ宇^ウ豆^フ乃^フ幣^ヒ帛^フ乎^フ稱^ア辭^ハ竟^ヘ奉^ラ久^ク乎^フ諸^モ聞^ク食^ケ登^ト宣^ス。(延喜式ニヨル)

式ニ於テ御儀
一歳ノ後宮中
拜一ノ日祭ハ
殿ヲ行ハルル
式ニ於テ御儀

歳旦祭祝詞

掛麻久母畏伎皇祖等能大前爾恐美恐美母白左久新伎年
乃新伎月乃新伎日乃今日乃朝日乃豐榮登爾御賀乃壽詞
仕奉良久登豐御食豐御酒種種乃物乎獻奉留狀乎平介久
安介久聞食志氏此乃年乎良伎年乃美志年登守給比幸給
比氏天皇命乃大朝廷乎堅磐爾常磐爾齊奉里給比天乃下
平介久穀物豐介久産業乎彌獎米爾獎米國民乎彌榮衣爾
榮衣志米給比氏大御稜威乎差異留年乃初日乃光登共爾

彌益益爾輝加志米給閉登恐美恐美母御賀乃壽詞仕奉良
久登白須。(内務省神社祭式令ニヨル)

元始祭ハ毎年
一月三日宮中
三殿ニ於テ行
ハセラルル御
儀式

元始祭祝詞

掛麻久母 畏伎皇神等能大前爾 恐美恐美母 白左久遠皇祖
 乃大御代與里天皇命乃御代受傳坐志氏知食志來留天都
 日嗣高御座乃大元始乎歲乃首爾言壽奉留登爲氏今日乃
 御祭奉仕留狀乎平介久安介久聞食志氏天皇命乃知食須
 天都日嗣乃大御隆天地乃共無窮爾動久事無久變留事無
 久齋奉里幸奉里給比天乃下平介久國內安介久皇大朝廷
 乃大御稜威乎天輝志國輝志爾輝加志米給比皇大御國乃

大御榮乎天足志國足志爾足波志米給閉登禮代乃御食御
 酒種種乃物乎捧奉里氏恐美恐美母言壽奉良久登白須。

(内務省神社祭式令ニヨル)

紀元節祭祝詞

掛麻久母畏伎皇神等能大前爾恐美恐美母白左久高天原
 爾神留坐須神漏岐神漏美命以知氏豐葦原水穗國乎萬千
 秋乃長秋爾平介久知食世登事依奉里志隨爾神日本磐余
 彥天皇乃高伎嚴志伎大御德以知氏食國天乃下乎平給比
 調給比氏大和國乃畝傍檜原乃底都岩根爾大宮柱太敷立
 氏高天原爾千木高知里底天都日嗣乃高御座爾坐志氏肇
 國知食志志與里皇御孫命乃御代御代彌繼繼爾承繼伎傳

來坐志氏彌廣爾立榮衣行久大元乎恐美奉里辱美奉里氏
 今日乃生日乃足日爾御食御酒種種乃物乎大前爾捧奉里
 氏今日乃言詞乃賀詞乎神壽岐壽奉良久波皇大御神乃定
 給比掟給閉留事乃隨爾天都日嗣乃大御位波天地登共爾
 久志久日月登共爾遠久彌益益爾御榮坐左牟皇大朝廷乃
 大御稜威波天乃壁立極國乃退立退彌次次爾廣里行加牟
 登神壽岐壽奉良久乎甘良爾聞世登恐美恐美母白須

(内務省神社祭式令ニヨル)

天長節祭祝詞

掛麻久母畏伎皇神等能大前爾恐美恐美母白左久八十日
 日波有禮杼母今日乃生日乃足日波志母明御神登天乃下
 知食須天皇命乃生出坐志志貴伎愛多伎美志日登天皇命
 乃大朝廷乎始米氏天乃下四方乃國波青雲乃靄久極白雲
 乃向伏須限落都留事無久漏留留事無久言壽岐仕奉禮婆
 此乃大前爾御食御酒種種乃物乎捧奉里氏稱辭竟奉良久
 乎平介久安介久聞食志氏天皇命乃大御壽乎手長乃大御

壽登由都磐村乃如久常磐爾堅磐爾齋奉里嚴御代爾幸奉
 里給比大御稜威乎彌高爾彌廣爾輝加志米給比大御惠乎
 彌遠爾彌長爾仰賀志米給閉登恐美恐美母言壽奉良久登
 白須。(内務省神社祭式令ニヨル)

明治節祭祝詞

掛^{カケ}麻^マ久^ク母^モ 畏^{カシコ}伎^キ皇^{スメ}神^{ガミ}等^{ナリ}能^ノ大^{オホ}前^{マヘ}爾^ニ恐^{カシコ}美^ミ恐^{カシコ}美^ミ母^モ白^{ハク}左^サ久^ク遠^{トホ}皇^{スメ}祖^ヲ
 乃^ノ大^{オホ}御^ミ代^ト與^{ヨリ}皇^{スメ}命^ノ乃^ノ御^ミ代^ト御^ミ代^ト受^{ウケ}傳^{ツク}來^キ坐^マ世^セ留^ル序^{ツイテ}乃^ノ隨^マ爾^ニ
 天^{アメ}都^ツ日^ヒ嗣^{ツギ}乃^ノ高^{タカ}御^ミ座^{クラ}爾^ニ坐^マ志^シ氏^ヂ食^ク國^{クニ}天^{アメ}乃^ノ下^{シタ}乃^ノ大^{オホ}御^ミ業^ノ乎^ハ恢^{ヒロ}給^ツ
 比^ヒ皇^{スメ}大^{オホ}御^ミ國^{クニ}乃^ノ大^{オホ}御^ミ隆^{サカエ}乎^ハ進^ス給^ツ比^ヒ志^シ明^{メイ}治^チ天^{アメ}皇^{ミコ}乃^ノ高^{タカ}伎^キ大^{オホ}御^ミ德^{トク}
 乎^ハ尊^{オホトビニツ}奉^リ里^リ嚴^{イカシ}志^シ伎^キ大^{オホ}御^ミ代^ト乎^ハ仰^{オホソ}奉^ル留^ル登^ト齋^{イハヒ}定^{サズ}給^ツ閉^ヒ留^ル今^{イマ}日^ノ乃^ノ生^イ
 日^ヒ乃^ノ足^タ日^ヒ爾^ニ大^{オホ}前^{マヘ}爾^ニ御^ミ食^ケ御^ミ酒^{サケ}種^{タネ}種^{タネ}乃^ノ物^{モノ}乎^ハ捧^{オホソ}奉^ル里^リ氏^ヂ稱^{オホソ}辭^{ハヒ}竟^マ
 奉^{オホソ}良^ラ久^ク乎^ハ平^{ヒラ}介^ケ久^ク安^{ヤス}介^ケ久^ク聞^{キコシ}食^ク志^シ氏^ヂ明^{メイ}治^チ乃^ノ御^ミ代^ト乃^ノ大^{オホ}御^ミ蹟^{イサツ}乎^ハ

彌^イ繼^{ツギ}爾^ニ恢^ヒ弘^ロ米^メ志^シ米^メ 給^ツ比^ヒ氏^ヂ皇^{スメ}大^{オホ}朝^{チカド}廷^ト乃^ノ大^{オホ}御^ミ稜^{レイ}威^イ乎^ハ天^{アメ}乃^ノ
 壁^{カベ}立^{ツツ}極^{キハミ}國^{クニ}乃^ノ退^{ソク}立^{ツツ}限^{カギリ}彌^イ高^{タカ}爾^ニ彌^イ廣^{ヒロ}爾^ニ伊^イ照^テ里^リ輝^{カガヤ}加^カ志^シ米^メ 給^ツ比^ヒ親^シ
 王^コ等^{ナリ}諸^{オホ}王^{キミ}等^{ナリ}乎^ハ始^{ハジ}米^メ氏^ヂ天^{アメ}乃^ノ下^{シタ}乃^ノ國^{クニ}民^{タミ}爾^ニ至^イ留^ル麻^マ傳^{ツク}五^イ十^シ櫃^{ハシ}八^ヤ
 桑^{クハ}枝^エ乃^ノ如^イ久^ク立^{ツツ}榮^{サカ}衣^エ志^シ米^メ 給^ツ閉^ヒ登^ト恐^{カシコ}美^ミ恐^{カシコ}美^ミ母^モ白^{ハク}須^ス。

(内務省神社祭式令ニヨル)

新嘗祭祝詞

掛麻久母畏氏皇神等能大前爾恐美恐美母白左久天都御
 食乃遠御食登新嘗聞食左牟登為氏天皇命乃宇豆乃大幣
 帛乎捧奉良志米給布賀故爾皇神等乃成幸給閉留八束穗
 乃秋乃初穗乎御食御酒爾仕奉里氏山野乃物波甘菜辛菜
 海川乃物波鱸乃廣物鱸乃狹物與都藻菜邊都藻菜爾至留
 麻傳爾置足波志氏獻奉良久乎聞食志宇豆那比給比氏天
 皇命乃大御代乎嚴御代乃足御代登萬千秋乃長五百秋爾

平介久安介久齋奉里幸奉里給比親王等諸王等乎始米氏
 天乃下乃國民爾至留麻傳撫給比惠給比氏五十櫃八桑枝
 乃如久立榮衣仕奉良志米給閉登恐美恐美母稱辭竟奉良
 久登白須。(内務省神社祭式令ニヨル)

昭和十一年九月十日印刷
昭和十一年九月十五日發行

立命館禁衛隊寶典
定價四十五錢

編輯代表者

倉橋勇藏

發行代表者

竹上孝太郎

印刷者

京都市下京區烏丸通七條下ル西入
堀井清

發行所

東京市京橋區銀座西二丁目一
京都市上京區廣小路寺町東入

立命館出版部

振替口座 東京七五三六二番
大阪二六九四四番

終

